

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070600558
法人名	株式会社 エルダーサービス
事業所名	グループホーム 牧水の丘
所在地	福岡県北九州市八幡東区東鉄町5番20号
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年10月21日	評価結果確定日	平成26年1月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所を開設して12年目を迎えます。現在、開設当初入居された方から入居10か月の方まで9名様が登場して入居頂いています。入居者様には常に意志を尊重し、笑顔で安心して頂き、心穏やかに日々生活が送れる様に全職員で取り組んでいます。入居者様が出来る事はご自分で頂き、無理のない範囲でお手伝いをして頂いたり、行事やレクリエーション等を通して入居様同志のコミュニケーション、職員との絆も築いています。今後も入居者様が自分らしく尊厳をもって、毎日が穏やかに過ごす事が出来る様に、御一人お一人に合わせたケアと思いやりを大切にしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地に近い利便性と緑が多く残る周辺環境の中にあり、日本家屋を改修している建物の落ち着いた佇まいは、暮らしの営みを感じながら過ごせる安心感がある。敷地内には、ゆとりある広さの庭園もあり、外気浴を行ったり、時には茶会を楽しむ等、豊かな生活環境を有している。開設して12年目を迎え、当初から入居されている方をはじめ、長期に入居されている方も多し。管理者、職員は、法人内の連携も活かしながら研鑽を積み、本人本位に基づく支援のあり方について、検討を重ねている。個人の希望や生活リズムを尊重し、日常の中での機能維持や活用に取り組みながら、普通の「暮らし」の継続に向けた関わりが伝わってくる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、皆がよく目につく場所に掲示しており毎朝のミーティング及び定例会などで唱和し、共有している。理念の実践に向け日々の業務に取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての理念が作成され、朝礼での読み合わせや、ミーティング、カンファレンスで振り返りを行いながら共有認識を図りながら、実践へと結び付けている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板などの受け渡しの際は挨拶や会話を行っている。牧水サクラという名前の犬をホームで飼っているの、散歩時などに犬を介してご近所の皆様との交流がある。	自治会に加入している。台風の際に近隣で倒木が発生した際には連携を図り、事業所の避難訓練にも協力を得ている。ボランティアの方による活花教室や八幡高校合唱部との交流は定例化している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で支援の方法や、認知症について説明している。見学者、電話での認知症、支援の方法などの相談を受け入れている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に一回開催されており、日々提供しているサービスの実際について、常に活動内容を公表している。その際にご意見・ご要望を伺い、日々のサービス向上に活かしている。	「牧水の丘だより」を通じて全家族への案内を行い、近隣の同法人事業所との合同開催となる。リビングで開催するため、入居者の参加する機会もあり、町内会長、地域代表、地域包括支援センター職員の出席を得て、定期開催されている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平成25年度八幡東区認知症対応グループホーム交流会が開催された。交流会参加することにより今まで以上の協力関係を市町村担当者と築くように取り組んでいきたい。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。また、八幡東区統括支援センターの主催により、グループホーム交流会が開催されており、情報共有や意見交換を行う機会がある。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	同法人4事業所の合同研修の中で、身体拘束排除の取り組みや認知症ケア等を取り上げ、職員の共有認識を図っている。個別のリスクの検討を行いながら、安全面の配慮と拘束を行わないケアについて検討を行っている。日中、玄関の施錠は行われていない。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部セミナー・研修等に参加したのち伝達研修、学習会を行い虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護、成年後見制度について、セミナー・研修等に参加し、研修報告で伝達研修を行い職員間で学習し、必要な場合は活用できるようにしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、資料を整備し、入居時や必要時に説明を行なっている。現在、制度を活用している方もおり、支援の過程を通じて学ぶ場面も多い。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居又は解約の際は、入居契約や重要事項説明書をもとに、当ホームでのサービスについて十分な説明を行い、ご理解し納得していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へのアンケート調査や玄関に投書箱を設置する運営推進会議において意見・要望など聞くなど、機会を設け反映させている。	事業所だよりにて、全家族へ運営推進会議の開催案内を行っている。また、家族会の開催やアンケートを実施し、出された意見や要望は職員間で共有、検討を行いながら、運営への反映に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、月に一度の定例会、個人的に個人面談などで、意見・提案を聞く機会を設け反映させている。	職員全員参加を基本とする定例会や日々のミーティングを通じて、職員意見の収集に努めている。実際に、活発な意見交換が行われ、事案によっては、管理者会議等での検討を行い、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員が得意分野を活かせるような役割分担をし、努力・実績・勤務状況などを把握している。又、各人が目標を持ち向上心を持って働き続けることができるように環境・条件整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては年齢・性別で排除することはない。事業所で働く職員に対して管理は定期的に意見・提案を聞き、各職員の能力を活かしながら業務にあたる様に配慮している。	法人としての採用となり、管理者も面接に立ち会っている。常勤採用を基本とし、研修体制の整備やリフレッシュ休暇の取得等、個々のスキルアップや働きやすい職場環境作りに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権尊重に考慮したケアが行われる様に、日々指導・教育に取り組んでいる。	法人としての合同研修や内部での伝達を行い、様々な視点から、人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部、外部研修と講演会を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと相互訪問し交流を図り、情報交換を行っている。又各職種間でのネットワークをつくりや勉強会に積極的に参加し質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談に伺い、御本人の思い、要望等をお聞きして、出来る限りご希望に沿った生活が送れる様に入居前までに環境を整える様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族との係り、要望等御家族から詳しく伺い、御本人が安心して日々生活出来る様にケア心掛け、御本人、御家族に信頼して頂ける様に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族と話し合い、最も必要としているサービス、支援が必要かを考慮した対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の入居者との会話を大切に、今なにを思い、感じているのかを常に考えておもしろいをお互いもって支えあう関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や来訪時に近況をお伝えしながら、行事参加、病院受診の付添、外出等職員と一緒にやる事により、お互いの関係に理解を深めながら、一緒に御本人を支えて行く関係を築かれている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人がこれまで親交があった友人、知人の来訪、電話を常に歓迎している。時には、馴染みの場所等に訪れて、御家族とも話し合いながら支援に努めている。	家族との連携を図りながら、施設入所されている親族を訪ねたり、馴染みのうどん店での食事を楽しむ機会を持っている。地域の名所や縁のある神社等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	行事、レクリエーション等を日々の生活に取り 入れながら入居者同士が会話をしたり、助 け合える様に日常での係わり合いを大切にし たり、共同作業等を通じて一人ひとりが孤立 する事が無い様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した入居者の近況をお尋ねしたり、御家 族からの相談等に関してはニーズに応じて 対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者の思いや意志を全職員で共有出来る 様に「ミーティングシート」により、情報の共有 化を図っている。出来る限り御本人の希望に 沿える様にしながら、本人本位の生活を尊重 出来る様に努めている。	個人記録には、本人の発言等、主観的な情報 も残され、職員間で共有している。担当制は とっているが、全職員で個々の入居者に向き 合い、馴染みの関係の中で、思いや意向の把 握に努めている。毎日、新聞の読み聞かせを 実施しており、会話のきっかけや広がりの中 で、情報を得ることも多い。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	御本人との日常の会話や御家族から、これ までの生活についての詳しい情報を提供して 頂いたり、以前利用していた介護サービス機 関からの情報提供もお願いしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	常時に入居者の様子の観察を行い、心身の 状態や能力の把握に努めて、状況は記録し て職員間で周知している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	御本人や御家族の要望を第一に考え、関係 者とカンファレンスを行い介護支援職員が介 護計画を作成している。	本人、家族の意向を踏まえ、医療関係者の意 見を参考にしながら、職員間でカンファレンス を実施している。毎月、モニタリングを実施し、 現状に即した介護計画となるよう見直しの必 要性を検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の入居者の様子やケアの内容は介護記 録に個別に記録している。次回の介護計画 の見直し等に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業者との連携を図り、その時々ニーズに応じたサービスに取り組が出来る様に、必要な情報収集、提供に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二ヶ月に一度の運営推進会議、ボランティアの先生の生け花教室、地域の美容師さんからによる訪問美容、必要に応じて地域の警察、消防、文化・教育機関との連携を図っている。地域催事に参加等も行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週一度、かかりつけ医の往診がある。又、健康状態に問題が生じた時には受診し、適切な処置を受けている。	もの忘れ外来が設置されている協力医療機関から入居となるケースも多く、2週間に1回、訪問診療が実施されている。また、希望や必要に応じて、他科受診を支援している。看護計画が作成され、定期的に評価を行うとともに、各担当者が手紙にて、健康状態や受診状況を家族に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を受け、御入居者の健康管理・医療相談の支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来る限りお見舞いに伺い、御家族、病院のソーシャルワーカーとの連携を図り、病院での治療方針・退院までの計画を話し合うカンファレンスに参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアの方針を作成しており、重度化した場合はかかりつけ医や御家族とも十分に話し合い、事業者で出来る事を十分にご説明し、常に御本人の状態を検討しながら出来る限り支援を行っている。	入居時に、重度化した場合における対応に関わる指針や看取りに関する指針をもとに説明を行い、意向確認を行なっている。状況の変化に伴い、家族や医師、職員との話し合いを重ね、その都度の意向確認と看取り介護についての同意書を作成している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当や緊急時の対応について訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防災訓練を行っている。日頃より、自治会、近隣の方に防災時の協力をお願いしている。緊急通報装置・スプリンクラー等も設置している。	年2回、避難訓練を実施し、毛布を使用する搬送訓練も行われている。自動通報装置には、近隣の同法人事業所や町内会長、役員の連絡先が組み込まれている。定期的にコンセントの掃除や確認も行われている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、対応等、御入居者の方々の尊厳を守り誇りやプライバシーに配慮し対応を行っている。	法人内の合同研修や事業所での伝達を行い、個人の尊重やプライバシーの確保について、意識を高めている。また、法人内他事業所での一日実習を実施したことで、あらためて確認する機会もあり、職員の対応からも、意識の高さがうかがえる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意見を尊重し、自己決定・自己選択が行える様に声掛けしている。御一人お一人に合わせた支援をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿いながらも、個人の希望を優先させた生活のペースに合わせたケアを行っている。日々の生活が健康で穏やかに、楽しく笑顔で生活して頂ける様に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度美容師がカットを行っている。又、馴染みの美容院に御家族と定期定期に行かれる方もいらっしゃいます。日々の生活の中でお化粧品や身だしなみ等には気を付けています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御一人お一人の好みを献立に活かし心身の状態にも考慮しながら御入居者と職員が楽しく会話しながら食事をしている。出来る方には、準備・後片付け等のお手伝いをして頂いている。	調理担当職員が配置され、旬の食材を用い、冷凍食品は使用されていない。ぬか床の手入れや梅干しづくり、プランターで育てた野菜を味わう等、「食」の楽しみは充実している。中庭でのお茶会、軽食を持ち花見に出かける等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々御入居者の毎食の食事内容や量、水分摂取量を把握し、記録している。その日の体調の変化に合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを徹底している。常に口腔内の異変を見逃さない様にケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に御一人お一人記録している。排便のパターンを把握して、トイレ誘導を行いなう等のケアをしている。	排泄チェック表を作成し、個別の状況や昼夜のパターンの把握に努めるとともに、サインや仕草等を見逃さないように留意し、さりげない声かけや誘導を行なっている。失禁の減少に向けたアプローチや、おむつ使用の方も出来る限りトイレ誘導を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事の内容・量留意し、適度な運動を行い排便パターンを把握してトイレ誘導を行いながら、便秘予防に取り組んでいる。必要に応じて主治医に相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	御本人の希望を聞き、入浴したい日・時間に合わせて支援している。	基本的な入浴スケジュール(2日に1回)は設定しているが、毎日、入浴準備を行い、希望や体調、状況に応じて、柔軟に対応している。個別の状況に応じて、職員2名での対応や簡易リフトを設置し、湯船にゆっくりと浸かれるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調、心身の状態に応じて就寝出来る様に、そして、日中でも必要に応じてお昼寝をして頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御一人お一人が服用しているお薬に付いては把握している。処方が変わった時には、変化の確認に努め、様子観察を徹底している。変化が見られる時はかかりつけ医に連絡し指示を受け対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御一人お一人の能力に合わせ、家事を手伝って頂いたり、趣味を楽しんで頂いたり、季節の行事・レクリエーション、気晴らしにドライブ散歩等を取り入れ、気分転換が出来る様な支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブに出掛けたり、地域のお祭りに参加しながら、地域の方と交流を深めている。御家族と一緒に外出される方もいらっしゃるので、今後も継続出来る様に支援していく。	日常的に、中庭や玄関先での日光浴やプランターの水やりなど、戸外に出る機会を持つようにしている。また、近隣のスーパーや100円ショップでの買い物、外食やドライブに出掛ける機会もある。家族との連携を図りながら、馴染みの場所への外出支援が行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人の希望を考慮しながら、能力に応じた対応をしている。御家族と外出されて御買物を楽しまれていらっしゃる方もいるので、今後も継続出来る様に支援していく。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望があれば、いつでも電話、手紙のやり取り等を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は家庭的で季節感を採り入れ、居心地良く過ごして頂くために工夫をしている。	築80年程の大きな日本家屋を改修して運営しており、施設感はなく、木部の風合いや調度品等、趣のある落ち着いた生活空間となっている。広い中庭に面した廊下から、スロープを利用して戸外に出ることも出来、気軽な散策や、避難経路としても活用されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭に面した場所にソファ等配置し、いつでも気楽に一人で過ごせたり、庭の草花を眺めたり、入居者同士で談笑出来る様な空間を演出している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御入居者が日頃から慣れ親しんできた家具、仏壇等を各居室に置かれている。これら愛着のある品々に囲まれて居心地良く過ごせる様に、御本人、御家族と相談しながら工夫している。	各居室は一律ではなく、配置や間取りがそれぞれ異なる。仏壇や筆筒、椅子等が持ち込まれ、生活感のある居室が多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全で自立した生活が送れるように物理的環境を整えている。(内部は全てバリアフリー、照明の位置や明るさ、要所への手摺りの設置、椅子の滑り止め、バスリフト等)各居室にはカレンダーと時計の設置があり、月日、時間の見当識に配慮している。		